

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02562

研究課題名(和文) 語られぬ収容所の集団的記憶を再生する日系アメリカ作家のポスト・メモリーの可能性

研究課題名(英文) Revisiting the Untold Collective Memory of the Internment: Japanese American Writers and their Postmemory

研究代表者

牧野 理英 (MAKINO, Rie)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：10459852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、第二次世界大戦中強制収容所で過ごした日系アメリカ人を親にもつ作家が、親の語らない収容所の集団的記憶をどのように当時の手紙や写真などで再生し、自身の作品に投射していったかというポスト・メモリーの過程を考察するというものである。そしてその歴史の再生過程において、このポストメモリー世代の日系作家が迫害に対するプロテストとは異なった抵抗のナラティブを創出していることを証明する。

本研究の成果としては、単著1冊『抵抗と日系文学：日系収容と日本の敗北をめぐる』(三修社、2022年)を中心に、共著4本(内1本は英論文)、論文3本(内1本は英論文)そして翻訳1冊である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、当該研究の日系作家が、アメリカそして日本という国家に対する批判的観点を親の世代の収容経験から形成している点にある。親の世代によって直接語られぬ収容経験が、異文化性をはらむものとして自身のアイデンティティーにくみこまれている状況は、日系作家が他のエスニック文学とは異なるナラティブを創出する一因となっていたと考えられる。当該研究における日系作家は「捕囚」という経験を単純な迫害の記憶に氷結させるのではなく、アメリカそして日本という国家への批判的見地に転換させた軌跡を示唆しているのである。日本でアメリカ文学を学ぶ者にとって、こうした日系文学の諸相を知ることは極めて重要であるといえよう。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on Japanese American writers whose parents had experienced internment during the Second World War. In addition, it explores how these writers belonging to the generation of postmemory, portray the collective memories in their works despite the absence of any direct information from their parents, except letters, pictures, and historical documents. The study aimed to analyze the process through which they attempt to create their narratives by resisting the discourse of victimization and construct their viewpoints to observe the super-national aspects of Japan. It consisted of two parts: 1) analyzing the documents found in the internment camps and interviewing the writers, and 2) exploring the types of American literature that influenced these writers and the manner in which they integrated these motifs into their works. The research objects comprised one book, four co-authored articles, three articles, and one translation.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ポストメモリー 日系アメリカ作家 集団的記憶 第二次世界大戦 日系収容所 集団的記憶喪失 カレン・テイ・ヤマシタ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日系アメリカ文学研究が他のエスニック文学研究と異なるのは、日系収容に対する日系作家の特異な歴史的認識による。アフリカ系、メキシコ系、先住民系といったエスニック集団にとって、奴隷制、移民法、略奪された土地といった歴史は、その民族集団の心身にかかわる可視化された迫害の記録としてアメリカ史上に顕在している。一方日系収容所の記憶は、様々な形で**不可視化される操作**がなされている。戦後の40年代後半から50年初頭にかけて、アメリカ政府側だけでなく日系集団内でも収容所の史実が語られることがなかった事態は「**集団的記憶喪失状態**」とさえ言われていた。日系収容をなかったものにするというアメリカ政府側の思惑もさることながら、多大な被害を受けた日系共同体内でさえ、その迫害の歴史を「恥」とみなし、次世代に語り継ぐことを拒んでいたのである。しかし同時にこの意図的に抹消されつつあった収容所の記憶は、収容者を親とする日系作家に特異なナラティブを与えていくことにもなった。

現在における日系アメリカ文学研究は、アメリカのみならず、日本でも周縁化されており、その実態を知ること自体が難しくなっている。しかし日本でアメリカ文学を学ぶ者にとって、日本に連関していく日系文学のナラティブは、グローバル化に対応するアメリカ文学研究の一環として継続して研究されなくてはならないことはいうまでもない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第二次世界戦中強制収容所で過ごした日系アメリカ人を親にもつ作家が、親の語らない収容所の集団的記憶をどのように当時の手紙や写真などで再生し、自身の作品に投射していったかというポストメモリーの過程を考察するというものである。そしてその歴史の再生過程において、日系作家が迫害に対するプロテストとは異なった抵抗のナラティブを創出していることを証明する。本研究は二段階となっている。まず1) 収容所内に残された文献を閲覧、解読し、日系作家群とのインタビューを行う。そして2) 子の世代である日系作家群がどのようなアメリカおよび英語圏文学に影響を受け、それらをどのように自分の作風に組み込んでいったかを考察することで、今日のアメリカ文学研究に一石を投じるというものである。

3. 研究の方法

本研究は大きく二つの研究方法に分かれる。1) アメリカ合衆国にある日系収容所(現在は研究所になっているケースが多い)に保管されていた手紙や書簡、そして本研究に該当する日系アメリカ作家とのインタビュー(ここではカレン・テイ・ヤマシタやジュリエット・コーノらを中心)によって収容経験という集団的記憶を彼らがどのようにとらえているのかを把握する、次に2) その資料やインタビューのなかで、日系作家がどのようなアメリカ作家に影響を受けたかを分析する。

4. 研究成果

2020年における新型コロナウイルスの世界的蔓延により、突如として海外渡航が難しくなり、当初計画されていたアメリカの大学図書館、研究所における文献を手に入れることが極めて困難となった。これに対し牧野は計画を大幅に変更し、海外における文献等は大学や研究所に問い合わせ、PDFやマイクロフィッシュのような形で取れ入れる方法に切り替え、論文および著書の下書きを完成した。本研究終了時の2022年において、研究成果は単著1冊、共著4本、論文3本、翻訳1冊、そして研究発表15本である。

アメリカの大学図書館や研究所等で収集した資料と共に、収容経験以外における戦争体験を、ポストメモリー世代である作家群がどのように描いていくのかという点にも着目し、アメリカ本土のみならず、ハワイ(ジュリエット・コーノ)や日本に連関する作家群(カズオ・イシグロ)に研究範囲を広げ、日系性なるものをグローバルな多角的視点でとらえることにした。

(1) ポストメモリー世代の日系アメリカ作家の視点 (アメリカ本土・ブラジル)

アメリカ本土の日系アメリカ作家(本研究ではカレン・テイ・ヤマシタを中心とする)の描く収容所に対する視線が、迫害言説から逸脱したものになっていき、日系性というエスニシティの超国家的資質を前景化しているという点に着目した。ヤマシタの作品には第二次世界大戦後に生まれ、70年代に成人していく日系アメリカ三世の集団が、日本の高度経済成長と比例してアメリカ国内においてエリートの意識をもって存在していく姿が描かれている。収容所を牢獄ではなく、幽閉された知識階級集団ととらえる視点はヤマシタ作品の日系三世のナラティブに集約されており、これは日系収容を被害言説から逸脱させ、新たな日系性の諸相を提示しているといえる。

これに加え、ヤマシタは作家活動の初期に文化人類学的フィールドワークのためブラジルへ渡っており、戦時中の日系共同体の中にも収容所的空間を見出している。アメリカ本土の収容所を戦時中の南米の日系共同体にみるこの視点は、超国家的な日系性を前景化している。加えてヤマシタはこうした幽閉された日系性の諸相を、19世紀アメリカ作家のハーマン・メルヴィルの海洋小説(『白鯨』や『ベニト・セレノ』)の船のイメージに投影して描いている。

(2) ハワイの日系アメリカ作家の視点

当初はアメリカ本土のみの作家に焦点を絞っていたが、ハワイの日系作家(ここではジュリエット・コーノを中心とする)の戦争記憶に対する視線も分析の対象にいれ、日系性を多角的にとらえることにした。アメリカ本土の収容経験がないものの、第二次世界大戦中には「島」という閉鎖された空間にとどまっていたハワイの日系アメリカ人のアメリカ本土の収容所に対する視点は、日本という国家を外側から見るという点において、ヤマシタと交錯するトランスナショナルな視点を感じられる。コーノの小説 *Anshū: Dark Sorrow* (2010) では日系アメリカ人でありながら日本で被爆する主人公を中心にプロットが展開する。そして、ハワイという「島」で育ったこの主人公の視点は超国家的側面を露呈させる日本の姿を見つめているのである。そしてコーノの場合は20世紀のアメリカ詩人エリザベス・ビショップの手法を使用し海のイメージを自身の作品 *Tsunami Years* (1995) に投射させている。通常母性を想起させる海は、ビショップの作品では人間を破滅させる自然の力として描かれている。こうした自然の災厄は、コーノの2000年代の作品においては、火のイメージにもつながり原子爆弾の脅威として *Anshū: Dark Sorrow* で展開していくことになる。そしてこの火の力=原子力を得ようとする戦時中の日本人の姿をコーノは批判的に描いている。

(3) 第二次世界大戦後の日本に連関する英語圏作家の視点

日系性というエスニシティの超国家的側面に着目するという意味において、収容所に直結はしないが、50年代日本を設定としたイギリス作家カズオ・イシグロの日本を舞台にした初期の作品『遠い山並みの光』と『浮世の画家』も本研究の対象とした。戦争記憶がないものの、それに対し筆をとるといってポストメモリー世代として牧野は、イシグロの視線をヤマシタやコーノと交錯するものとして取り扱った。イシグロは日本という国家の中に超国家的資質を見出し、異国の「祖国」として見ていることが分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Rie Makino	4. 巻 23
2. 論文標題 Book Review Elda E. Tsou, Unquiet Tropes: Form, Race, and Asian American Literature	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AALA Journal	6. 最初と最後の頁 85-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野理英	4. 巻 97
2. 論文標題 ジュリエット・コーノ ヒロに降る雨 翻訳	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三田文学	6. 最初と最後の頁 220-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野理英	4. 巻 60
2. 論文標題 書評 逸脱するナラティブ—Juliet KonoのHilo Rains におけるもう一つのハワイ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in English Literature	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 抵抗するナラティブ : Lawson F. Inada の世界と日系アメリカ詩の可能性
3. 学会等名 『惑星の視点とアメリカ文学研究の可能性』（中央大学文学部英文学科中野学而主宰）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 PostMemory and Social Amnesia: the Resistance against Subaltern Discourses in Karen Tei Yamashita 's Works
3. 学会等名 ASA (Association of American Studies) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 島と日系アメリカ: I Hotel 第六章を読む
3. 学会等名 AALA (アジア系アメリカ文学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 災害とローカル・ナラティブ ジュリエット・コーノ『ツナミの年』における海の表象
3. 学会等名 エコクリティシズム研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 「分別」と「多感」の狭間でー、ヤマシタの『三世と多感』における 日系ディアスポラの諸相
3. 学会等名 日本英文学会 第93回 全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 A Unique Historical Resonance Between the Japanese and American Gothic Genres in the Film Adaptation of Koji Suzuki's The Ring
3. 学会等名 上智大学英文学会 第45回年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 Juliet Kono and Her Local Hawaii: Glocalism in Tsunami Years
3. 学会等名 The 4th HOKU Symposium for Advanced Interdisciplinary Research Collaboration between Kobe University and University of Hawai'i (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 Routes to Internment: Disrupting Subaltern Representations of Japanese Americans in Karen Tei Yamashita's Works.
3. 学会等名 Japanese Association of American Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 「シマ」をめぐる日系アメリカと南部、そしてその敗北の共振ー ワカコ・ヤマウチとテネシー・ウィリアムズ
3. 学会等名 科学研究費・基盤研究(B): 「メイフラワー・コンパクトにおける「排除/包括の理論」と環大西洋文化の再定位」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 異国、収容所、文化人類学ー Letters to Memory (2017) に至るまでの カレン・テイ・ヤマシタのエスニックナラティブ
3. 学会等名 第63回 日本アメリカ文学会九州支部 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 「日系アメリカ文学におけるパートルビー的笑いーベルグソンをめぐって」 シンポジウム 「アメリカ文学における戦略としての笑いー スラップスティック、オートマティズム、キャンプ、ポストアイロニー」
3. 学会等名 第62回 日本アメリカ文学会 関西支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 日系アメリカ作家チャールズ・キクチの黒人文学観：1940年代南部における日系とアフリカ系との交錯
3. 学会等名 黒人研究学会 例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 The Japanese Diaspora and a Certain Sense of Defeat: Teaching the Works of Kazuo Ishiguro and Karen Tei Yamashita
3. 学会等名 The 9th Annual Liberlit Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rie Makino
2. 発表標題 Resistance, Silence, and Wall in "Bartleby": Japanese American Responses to Melville's Works
3. 学会等名 International Melville Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧野理英
2. 発表標題 抵抗と沈黙 - 日系アメリカ作家はハーマン・メルヴィルをどう読むのか？
3. 学会等名 アジア系アメリカ文学研究会 例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 牧野理英	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 312
3. 書名 抵抗と日系文学：日系収容と日本の敗北をめぐって	

1. 著者名 Rie Makino Co-edited article	4. 発行年 2021年
2. 出版社 MLA	5. 総ページ数 250
3. 書名 Approaches to Teaching the Works of Karen Tei Yamashita (pp.128-132)	

1. 著者名 牧野理英 共編著 (山本秀行、麻生享志、古木圭子、牧野理英 編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 アジア系トランスボーダー文学 アジア系アメリカ文学研究の新地平 (pp.89-100)	

1. 著者名 牧野理英 共著 (巽孝之、下河辺美知子、越智博美、後藤和彦、原田範行 編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 545
3. 書名 脱領域・脱構築・脱半球, 二一世紀人文学のために (pp.532-535)	

1. 著者名 牧野理英	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 243
3. 書名 ツナミの年	

1. 著者名 牧野理英 共著 (伊藤詔子、一谷智子、松永京子 編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 360
3. 書名 トランスパシフィック・エコクリティシズム: 物語る海、響き渡る言葉 (pp.109-124)	

1. 著者名 牧野理英 共著 (塩田弘、松永京子 編他)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 436
3. 書名 エコクリティシズムの波を超えてー人新世の地球を生きる所収 (pp.369-383)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------